

令和4年度 第1回三田市環境審議会 議事概要

会議の名称	令和4年度 第1回三田市環境審議会		
会議の日時	令和4年7月15日(金) 16:00~17:30		
会議の場所	三田市役所 本庁舎 3階 302会議室		
出席した委員の氏名	佐藤 裕司委員、石田 弘明委員、荒木 辰哉委員、阪本 浩司委員、岸本 和史委員、道阪 悦子委員、森 里美委員		
出席した庶務職員の職及び氏名	事務局	まちの再生部	久高部長
		里山のまちづくり課	田中課長
		環境創造課	赤井課長、辰巳係長、寺嶋主任
傍聴者の人数	1名		
取材者の人数	0名		
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 挨拶 3. 議事 <ol style="list-style-type: none"> ① 三田市環境審議会規則第4条に規定する部会の設置について ② 第3次三田市環境基本計画の進捗管理について ③ 三田市環境基本計画の改定について ④ その他 4. 閉会 		
会議の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・三田市環境審議会規則第4条に規定する部会(生物多様性さんだ里山戦略(仮称)策定検討部会)の設置について、説明を行った。 ・生物多様性さんだ里山戦略(仮称)骨子案について説明を行い、それに対する質疑を行った。 ・第3次三田市環境基本計画の進捗管理の評価結果について説明を行い、それに対する質疑を行った。 		
公開・非公開の区分	公開		
使用した資料の名称	<ul style="list-style-type: none"> ➢【資料1】次第 ➢【資料2】三田市環境審議会(仮称)生物多様性さんだ里山戦略策定検討部会設置要綱(案) ➢【資料3】生物多様性さんだ里山戦略(仮称)骨子案 ➢【資料4】第3次三田市環境基本計画の進捗管理シート(R3) ➢【資料5】三田市環境審議会規則 ➢【資料6】アンケート案 		
連絡先			

■議事:

三田市環境審議会規則第 2 条第 2 項の規定により、佐藤会長が進行

①三田市環境審議会規則第 4 条に規定する部会(生物多様性さんだ里山戦略(仮称)策定検討部会)の設置について

(事務局) 【資料 2】及び【資料 3】を用いて説明

(会長) 「行動案 3 里山・里海の繋がり確保一市を超えた広域連携」と書いてあるが、一番最後の行で、「武庫川下流の他市と連携する」とあるが、わざわざ下流と表現する必要はないのではないかと。
「武庫川流域」という表現で良いのではないかと思う。その辺も含めて、今後部会の方で検討していただきたい。

(事務局) 今後検討させていただく。

(会長) また、生物多様性に関する検討部会への委員の選出については、この環境審議会から副会長の石田委員と山田委員にお願いしている。

②第 3 次三田市環境基本計画の進捗管理について

(事務局) 【資料 4】を用いて説明

(委員) P1 で「環境学習プログラム数」の令和 4 年度目標値は 30 講座ということだが、この目標を達成しようと思うと、年度計画で 30 講座計画しておかないと、達成できないと思う。現在、計画上では 30 講座実施する予定になっているのだろうか。

(事務局) 今年度は 30 講座に満たない状況である。しかし、令和 3 年度数値はコロナ前の水準まで回復させることができたため、評価を○としている。

(委員) 令和元年の段階で令和 4 年の目標を達成している指標についてだが、もう少し目標を高く設定してもいいと思う。既に令和 4 年度の集計が開始されていると思うが、P2 の「環境関連ホームページアクセス数」の目標値が 12,000 回/年に対して、令和元年で 16,000 回/年を達成しており、現状は 40,000 回/年ほどになっている。P3 の目標値も同様である。
また、先程話題に上がっていた「環境学習プログラム数」についてだが、今後開催する講座において、オンライン形式で開催予定のものはあるか。

(事務局) 目標値の更新及び検討については、今後の行われる環境審議会にて議論することとなる。また、オンライン形式の講座の有無だが、すべての講座で行える訳で

はなく、今後の状況や受講者のネットワーク環境なども鑑みて、適宜行っていく予定だ。

(委員) 環境学習講座の対象者は、主に小中学生が対象となると思う。オンライン形式で行うことで、子どもでは入れないような獣道や夜中の屋外等での講座も開催できると思う。講師の方には負担になってしまうかもしれないが、オンライン形式だからこそ、講座内容が広がるようになると思う。なので、是非そのあたりも視野に入れて講座を検討していただきたい。
有害鳥獣の問題について、被害は年々減ってきているようですが、要因は何だと考えられるか。

(事務局) 被害の減少については、複合的な要因があると思う。ただ、担当部署で防護柵や電気柵の導入支援を行ってきたので、それら道具の普及の効果が出始めてきたものだと考えている。

(委員) 三田市でジビエは有名ではないのか。

(事務局) 商業ベースのものは、聞き及んでいない。商業的な活用となってくると、一定水準の安定供給が必要になってくるため、そこまで継続して供給はできないと思う。

(委員) 実績の中で、達成が厳しい又は実績が横ばいになっているものがあるかと思うが、こちらの目標値は修正するのか。

(事務局) 成果指標の評価については、全体のバランスを確認しながら自己評価を行っており、目標達成に満たないものもある。現計画の最終年度が始まった段階で、達成が難しいのではないかとと思われる指標があることも、ご指摘の通りである。例えば、ご指摘されていた「さんだクリーンサポーターの登録者数」1,800人だが、普及啓発したが、実質的な伸びは非常に厳しい状況である。しかし、市民の美化意識が希薄になっているという印象は無い。関心の高い方々に、「共に市をきれいにしていきましょう」とこれからも声を掛けさせていただき、数値的にも改善させていく予定である。他の指標についても同様に考えている。

(委員) 「飼い主のいない野良猫に対して支援する活動を行っている。」とのことだが、猫を飼っている市民への補助等はないのか。

(事務局) 補助の対象は、飼い主のいない野良猫のみに限っている。また、申請は2人以上の団体からしか申請できないようになっている。

(委員) 有害鳥獣に関してだが、捕獲された鳥獣の処理はどのようになっているか。

(事務局) 動物焼却炉で火葬している。

③三田市環境基本計画の改定について

(事務局) 環境審議会が諮問を受けた

【資料 6】を用いて説明

(委員) 調査についてだが、どういう方法で行われるのか。

(事務局) 今回のアンケートは2種類あり、市民向けと事業者向けがある。市民向けのアンケートについては、無作為抽出した市民の方に紙媒体を郵送して回答をいただく。事業所向けのアンケートについても、無作為抽出した事業者100社に対して郵送する予定だ。回答は紙媒体を返信用封筒で送っていただくか、二次元コードを読み取ってWebで回答できるような方法も導入したいと考えている。

(会長) 4、5年前にも行っていたが、回収率はどのくらいだったか。

(事務局) 前回の回答率は51.4%で、今回は6割程度を想定している。

(委員) 三田市民は約10万人だが、この人口に対して500人の回答は妥当な数なのか。

(事務局) 統計学上では、1～10万人規模の人口に対して400サンプル以上回答が集まれば十分であると言われている。

(委員) 事業者向けのアンケートについて、回収率を上げるのであれば、Web上にアンケートフォームを作成して、各商工会議所にも呼び掛けることが重要ではないか。

(事務局) 事業者の数は変更できないが、Web回答も視野に入れて回答しやすい方法を検討する。

(委員) 市民向けのアンケートだが、配布地域はランダムになるのか。

(事務局) 対象者の地域は満遍なく配布予定である。

(会長) SDGsに関する認知度について、前回アンケートとの比較ができればと思う。その他、気づいた点があれば、事務局へご連絡いただきたい。

④その他

(事務局) ゼロカーボンシティ推進方策検討部会の進捗について説明

(事務局) 現在の環境審議会の任期は今年度8月までだが、今年度は非常に数多くの議題を抱えているので、可能であれば現在の委員に継続していただきたく思う。つきましては、後程再任の依頼を各委員にご連絡させていただく。何卒宜しくお願いする。

(会長) 了承した。

■閉会

議事録については、後日、配布する。